

公益社団法人 日本船舶海洋工学会 平成28年度（第121期）事業報告 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

日本船舶海洋工学会は、船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するため、会員を含む広く一般国民を対象とした公益目的事業として、調査研究事業ならびに啓発広報事業を行っている。平成28年度は国の補助金を得て大型研究活動を行ったほか、海外共同研究促進事業、海洋教育フォーラム活動を拡大した。また創立120周年記念事業の準備を行った。実施された事業について、事業区分ごとに以下に示す。

I 調査研究事業

【1】学術講演会

(1) 春季講演会

平成28年5月26、27日、福岡市の福岡県中小企業振興センターにおいて、平成28年春季講演会を開催した。約320名の参加があり、一般講演132件、OS2セッション(14件)、合計146件の講演が行われた。また、若手優秀講演賞へは27件の応募があり、厳正な審査を経て、4件の若手優秀講演賞が授与された。懇親会には約180名が参加した。

特別講演として、日本財団を中心に、海洋開発人材の育成を目的に創設された「未来の海バイオニア育成プロジェクト」について、吉元博文氏(国土交通省)と吉田正則氏(日本財団)に紹介していただいた。企業展示では8社の展示が行われ、企業展示の拡張としてのランチョンセミナーを3社が開催した。

(2) 秋季講演会

平成28年11月21、22日、岡山市の岡山コンベンションセンターにおいて、平成28年秋季講演会を開催した。約350名の参加があり、一般講演117件、OS4セッション(30件)合計147件の講演があった。特別講演として、潮流発電等による自然エネルギーの回収に関する研究を精力的に行われている、岡山大学大学院環境生命科学研究科比江島慎二准教授より、「振り子式潮流発電 Hydro-VENUS による里海エネルギーの回収」が行われた。英文による学生ポスターセッションでは12件の応募があり、それぞれについて1-minuteプレゼンテーションを行うとともに、厳正な審査を経て、3件の表彰を行った。企業展示では、9社の展示が行われ、うち3社はランチョンセミナーを開催した。懇親会には約200名が参加した。

(3) 講演会企画委員会

委員数：山崎哲生委員長ほか6名

各支部講演会実行委員会および電子投稿WGとともに、春季・秋季学術講演会の企画・運営を行った。また、春季・秋季講演会の企画・運営において、問題点があったオーガナイズド・セッションの運営、プログラム編成を円滑に行うための基本ルールとなるOS運営要領を策定し、平成29年春季講演会から適用することにした。

【2】論文集発行

(1) 論文審査委員会

委員数：日夏宗彦委員長ほか21名

主として国内からの投稿論文に対して論文審査を行い、有益な論文を集めて日本船舶海洋工学会論文集第23号、第24号を発行した。また平成29年3月7日開催の論文審査委員会において日本船舶海洋工学会賞(論文賞2件)および奨励賞3件を選考した。

(2) 日本船舶海洋工学会論文集刊行

表1-1のとおり日本船舶海洋工学会論文集第23号を平成28年6月に、第24号を平成28年12月に刊行した。

表1-1 日本船舶海洋工学会論文集刊行

	論文数	頁数	発行部数
論文集第23号 (平成28年6月)	24	249	1,000
論文集第24号 (平成28年12月)	27	320	1,000
計	51	569	2,000

【3】英文論文集(Journal of Marine Science and Technology)の発行(科研費補助事業)

(1) JMST編集委員会

委員数：梅田直哉委員長ほか44名

世界各国からの学術投稿論文に対して論文審査を行ない、有益な論文を60編集めてJMST Vol.21 No.2～Vol.22 No.1を編集した。日本学術振興会の科学研究費補助金を受けて、海外より1名を招へいしAssociate Editorの会議(29.3.21開催)を行い、また基幹論文1編のオープンアクセス化を図り、優秀論文賞をJMST論文1篇に対して授与するなど、国際情報発信の強化を行った。

(2) JMST刊行

JMST Vol.21 No.2～Vol.22 No.1の4冊を、表1-2のとおり刊行した。

表1-2 英文論文集(JMST)刊行

	論文数	頁数	発行部数
Vol.21 No.2 (平成28年6月)	16	189	550
Vol.21 No.3 (平成28年9月)	14	198	550
Vol.21 No.4 (平成28年12月)	15	200	550
Vol.22 No.1 (平成29年3月)	15	199	550
計	60	786	2,200

【4】調査・研究活動

1. 研究企画委員会

委員数：谷澤克治委員長ほか12名

学会の研究活動全般を統括し、研究活性化戦略を企画・推進することを目的として、研究企画委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第34回	28.7.4	日本船舶海洋工学会	11名	8件
第35回	28.10.31	ニッセイ新大阪ビル	9名	8件
第36回	29.2.14	深見ビル	8名	5件

実施事項：

- ・分野研究活動の報告及び検討
- ・新規研究委員会の設置に関する審議(3件)
- ・新規研究会設置に関する審議(1件)
- ・分野研究企画部会、研究会等の予算に関する審議

- ・分野からの追加事業の審議 (2件)

2. 分野研究企画部会

性能・運動分野

委員数：日野孝則委員長ほか7名

船舶及び海洋構造物等の性能・運動分野についての研究動向や産業界のニーズを踏まえ、我が国として取り組むべき重点課題の設定と研究活動方針の策定、実施体制の検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	28.6.16-17	神戸大学深江キャンパス	8名	13件
第2回	28.10.20-21	海上技術安全研究所	6名	6件
第3回	29.3.1-2	えひめ共済会館	9名	13件

実施事項：

- ・推進・運動性能研究会の企画、実施
- ・重要研究課題の議論、および新研究委員会の企画
- ・ITTC/JTTC活動情報の共有化

構造・強度、材料・溶接分野

委員数：鈴木克幸委員長ほか9名

構造・材料研究や共通構造規則に関し、材料・溶接研究会および各支部にある構造研究会の活動状況の情報交換を実施した。

回	期日	場所	出席者数
第1回	28.12.19	広島大学	8名

実施事項：

- ・各研究会における活動(総計22回)の情報交換
- ・構造と材料を横断する研究テーマの探索
- ・3支部の構造研究会の交流の促進
- ・各研究会メンバーの他研究会への参加に関する提案
- また4研究会の合同研究交流会を開催し、情報交換を促進した。
- ・第1回分野研究交流会の開催

(28.12.19, 広島大学, 出席者48名, 研究発表 4件)

工作分野

委員数：大沢直樹委員長ほか11名

船殻工作分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を目的とし、建造革新研究会の活動進捗確認及び活動方針検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	28.4.18	九大箱崎キャンパス	9名	3件
第2回	28.10.19	新大阪丸ビル会議室	9名	3件
第3回	29.1.20	新大阪丸ビル会議室	9名	3件

設計・艦装分野

委員数：篠田岳思委員長ほか7名

造船設計部会、船体艦装工作部会、機関艦装部会、電気艦装部会の4部会を連携させ、横断的な共同研究テーマや共同シンポジウムの検討および情報交換のため、書面協議を2回行った。

実施事項：

- ・第13回造船設計・生産技術研究会シンポジウム(29.9予定)開催に向けて講演内容の企画立案
- ・新規プロジェクト研究テーマの企画立案

海洋工学・海洋環境分野

委員数：安澤幸隆委員長ほか9名

海洋工学および海洋環境分野の研究動向を調査・整理するとともに、今後の研究を企画・推進・支援するため、海洋工学・海洋環境分野研究企画部会を下記のとおり開催した。

回	期日	場所	出席者数
第34回	28.8.19	いわき市	13名
第35回	28.12.13	府大 I-site なんば	8名
第36回	29.3.27	久慈市	8名

実施事項：

- ・海洋工学・海洋環境合同研究会の企画、開催
- ・関連研究委員会(P-44, P-48, S-13)の活動支援、企画立案

- ・日本海洋工学会と共同主催で第26回海洋工学シンポジウム開催
- ・洋上風力ウインドファーム見学の実施(28.8.18)
- ・波力発電装置見学会の企画、実施(29.3.27, 岩手県久慈市, 22名参加)
- ・海外動向の把握等

情報技術分野

委員数：濱田邦裕委員長ほか7名

造船および海事産業の情報技術に関する研究・開発動向を調査するとともに、今後の研究・開発の推進を目的として以下の通り実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	28.06.07	川崎重工業	8名	7件
第2回	28.10.07	広島大学	8名	6件
第3回	28.11.29	東京大学	8名	6件
第4回	29.01.18	JMU	8名	9件

実施事項：

- ・研究企画委員会の審議事項の報告と連携
- ・プロジェクト研究会(P50)活動進捗に関する審議
- ・SPEEDS研究調査事業に関する審議

3. プロジェクト研究委員会

今期は10件のプロジェクト研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会は5件(P-41, P-42, P-44, P-46, P-47)、新たに活動を開始した研究委員会は4件(P-49, P-50, P-51, P-52)である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

P-41 JSQS(艦装関係)2015年版改訂研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか18名

JSQS(艦装関係)改訂版の発行を28年度末までに行うことを目標にして編集作業を進めた。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第10回	28.6.13,14	三菱下関	22名	4件
第11回	28.11.10,11	名村	14名	4件

P-42 PSPC適用船の施工のための裏焼け防止検討研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか18名

裏焼け実験およびシミュレーションについての研究報告がなされた。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第6回	28.6.13,14	三菱下関	22名	1件
第7回	28.11.10,11	名村造船	14名	1件

P-44 海洋エネルギー施設の環境影響評価に関する研究委員会

委員数：北澤大輔委員長ほか7名

海洋エネルギー施設の環境影響評価に関するIEA/OES Annex IVのPhase I, Phase II報告書を調査し、情報を共有した。実海域での調査事例について、調査項目ごとに、目的、方法、結果等を取り纏めた評価事例集を作成した。研究委員会の最終成果の公表の方法について議論した上で、最終報告書を作成した。

- ・環境影響評価事例のレビュー
- ・IEA/OES Annex IVのPhase I, Phase IIレポートの調査
- ・国内での環境影響評価実施状況の情報交換
- ・最終報告書の作成

回	期日	場所	出席者数	議題
第6回	28.7.8	府大 I-site なんば	6名	4件
第7回	28.9.19	東大本郷	7名	4件
第8回	28.12.12	府大 I-site なんば	7名	2件

P-46 「船内交通装置設計指針」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか17名

旧来の JSDS-21 を昨今の船型及び新規規則に見合ったものに改訂することを目的に活動を行った。危険防止の観点で、事故例の解析、リスク分析といった安全・信頼性の検討結果を追加した改訂版を作成し、委員会審議を終了した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第5回	28.9.29	倉敷ナサドホール	21名	1件

実施事項：

- ・造船設計部会にて最終原稿の内容について審議
- ・改訂版「船内交通装置設計指針」の配信

P-47 船体疲労強度設計法の精密化のための研究委員会

委員数：深沢塔一委員長ほか12名

実際の船の運航と海象を考慮に入れた荷重推定とそれを基にした亀裂伝播実験・解析を行い、船の航路を特定した場合の疲労寿命推定が可能となる手法を開発した。

回	期日	場所	出席者数
第5回	28.5.26	学会会議室	13名
第6回	28.10.3	学会会議室	11名

実施事項：

- ・重畳波による疲労試験とその評価
- ・重畳波下における疲労亀裂伝播シミュレーション
- ・ウェザールーティングシミュレーション
- ・疲労寿命評価に対するホイッピングの影響の評価

P-48 海洋における生態系サービスの評価に関する研究委員会

委員数：大塚耕司委員長ほか9名

生態系サービスに関する国内文献リストを作成し、その中の海洋関連分野の論文をピックアップして概要を作成した。これまでの生態系サービスに関する論文のレビュー結果を整理し、Triple I の生態系サービス評価の課題の抽出を行った。またその結果を踏まえ、環境経済学の研究者を招いて勉強会を企画した。

- ・海洋関連分野論文の抽出と概要作成
- ・The Economics of Ecosystem and Biodiversity (TEEB)、および Barbier らによる文献の調査
- ・Triple I の生態系サービス評価の課題の抽出

回	期日	場所	出席者数	議題
第3回	28.7.8	府大 I-site なんば	9名	3件
第4回	28.9.16	東大本郷	9名	4件
第5回	28.11.18	府大 I-site なんば	4名	2件

P-49 「船舶塗装防食設計指針の改定」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか17名

平成12年に改訂された標記指針を昨今の PSPC, VOC, 無溶剤塗料などを追加して全面的に改訂することを目的に活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	28.9.29	倉敷ナサドホール	6名	1件

実施事項：

- ・基本方針、作業スケジュール、作業分担の協議
- ・進捗状況について審議

P-50 造船業におけるIoT技術の利用検討に関する研究委員会

委員数：濱田邦裕委員長ほか27名

IoT活用の先進的な取組についての情報収集ならびに、新たな技術動向について調査し、今後の船舶建造におけるIoTデバイス活用の可能性及び課題について研究することを目的に、以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	28.06.07	川崎重工業	28名	2件
第2回	28.10.07	広島大学	25名	2件
第3回	29.01.18	JMU	25名	2件

実施事項：

- ・バイタルセンサーデバイスの安全管理への適用検討

- ・予実管理について各業務毎の各社実施状況調査
- ・モニタリングデバイスおよびシステムプロトタイプの紹介

P-51 内航海運のための省エネ母船型の研究開発委員会

委員数：日野孝則委員長ほか13名

本委員会は、日本船舶海洋工学会が造船所3社と共同研究体を形成して実施した、資源エネルギー庁の補助事業のステアリング委員会である。事業の目的は、中小造船所で低コストかつ容易に建造が可能であり、比較対象とする在来船型から16%以上の省エネ効果を有する最適船型2種(499トンタンカーおよび749トン一般貨物船)および最適船型から要目等のバリエーションを考慮した省エネ船型群を開発することである。最適船型および省エネ船型群については基本計画等を実施して実用船型としての有用性を確認する。プロジェクトは計画通りに進行し、資源エネルギー庁に成果報告書を提出した。なお成果のとりまとめおよび省エネ船型普及の取り組みのために、平成29年6月まで、委員会活動を延長する。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第1回	28.7.1	TKP 品川 CC	7名	9件
第2回	28.8.8	TKP 品川 CC	16名	8件
第3回	28.8.30	TKP 品川 CC	14名	6件
第4回	28.9.28	TKP 品川 CC	17名	8件
第5回	28.10.24	TKP 品川 CC	15名	6件
第6回	28.11.24	三浦造船所	21名	10件
第7回	28.12.26	海技研	24名	9件
第8回	29.1.29	興亜産業(株)	19名	9件
第9回	29.2.24	エム・シー福山	23名	2件
第10回	29.3.22	TKP 品川 CC	16名	3件

P-52 作業安全に配慮した作業標準の制定方法に関する研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか18名

研究方針の策定と3つのWGの活動報告がなされた。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	28.11.10,11	名村造船	14名	3件
第2回	29.3.1,2	川重神戸	18名	3件

4. ストラテジー研究委員会

戦略的課題について研究する3件のストラテジー研究委員会を実施した。この3件(S-12, S-13, S-14)とも今期に活動を終了した。今期の委員会活動は以下のとおりである。

S-12 IMO 最低出力ガイドライン策定方針研究委員会

委員数：安川宏紀委員長ほか25名

EEDI規制を受けて主機の小型化が進むと主機出力が小さくなり、その結果として荒天航行時の安全性が確保できない懸念がある。本委員会では、最低出力を規制するガイドラインの最終案の審議に向けて、我が国の運動性能研究の蓄積に基づき、これから実施すべき研究開発の具体的な方向性を策定・提案する事を目的とした。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第9回	28.8.26	日本海事協会	20名	12件
第10回	28.12.6	海上技術安全研究所	24名	12件
第11回	29.3.24	東広島芸術文化ホール	18名	9件

実施事項：

- ・最低出力ガイドラインの策定に関する技術的検討(水槽試験および理論計算結果の報告など)
- ・同ガイドラインのIMO提案文書に関する討議
- ・欧州プロジェクト SHOPERA との会合に関する情報交換

S-13 海洋再生エネルギー水槽実験方法検討委員会

委員数：村井基彦委員長ほか16名

近年の海洋再生可能エネルギーの中でも潮流・海流発電および波浪発電にターゲットを絞り、国内外の国際会議などを中心に関連文献の調査と情報の整理を行った。第26回海洋工学シン

ボジウムのOSを企画・実施した。

回	期日	場所	出席者	発表件数
第4回	28.5.26	福岡県中小企業振興センター	7名	2件
第5回	28.9.21	九州大学有楽町サテライトキャンパス	11名	3件

S-14 コンテナ船最終強度検討F S委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか26名

コンテナ船の縦曲げ最終強度に関して、現時点で学問的に解明できた部分とできていない部分を明らかにして、今後の研究展開のための指針を提示するための議論を行った。

回	期日	場所	出席者数
第5回	28.5.30	大阪大学東京ブランチ	22名
第6回	28.10.19	AP東京丸の内	21名

実施事項：

- ・コンテナ船最終強度評価の課題についての意見交換
- ・荷重、強度、安全性評価のWGでの検討
- ・提言内容、最終報告書の議論

5. 研究会

船舶海洋工学に係わる情報交換および技術交流を支援・促進するため各種研究会を設置し、研究発表およびシンポジウム開催等の活動を実施した。現在設置の研究会は次のとおりである：推進・運動性能研究会、材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会。

推進・運動性能研究会

会員：日野孝則会長ほか277名

船舶・海洋構造物の推進・運動性能に関して広く情報交換を行い、この分野の研究交流を促進して、関連分野の発展に寄与することを目的として、以下の研究会を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第4回	28.6.16-17	神戸大学深江キャンパス	45名	10件
第5回	28.10.20-21	海上技術安全研究所	63名	16件
第6回	29.3.1-2	えひめ共済会館	44名	11件

実施事項：

下記講演を研究会にて開催し、集中的な討議を行った。

- ・特別講演「航空・宇宙分野におけるBCM研究の現状と課題」、『BCMを用いた船体流場の大規模CFD解析能に関する研究委員会』活動報告
- ・特別企画 若手セッション 講演5件
- ・施設見学（神戸大学：海事博物館）
- ・その他一般研究発表と討議

材料・溶接研究会

会員：栗飯原周二会長ほか43名

材料・溶接・破壊力学分野について、最新研究の情報交換、討議を行った。また構造系四研究会合同交流会を広島大学東広島キャンパスで開催した（28.11.26 出席者31名、発表4件）。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第33回	28.7.1	東京大学山上会館	18名	3件
第34回	28.11.18	東京大学工学部3号館	14名	3件
第35回	29.3.6	新大阪丸ビル別館	29名	5件

実施事項：

以下に例を示す項目について発表・討論を行った

- ・新しい疲労劣化鋼の設計指針と制振構造への適用および将来展望
- ・理想化陽解法FEMによる大規模非線形溶接解析手法の開発と応用
- ・超大型コンテナ船用YP460Pa級厚板向けエレクトロガスアーク溶接材料の開発
- ・鉄鋼材料の微視組織情報に基づく疲労寿命予測モデル
- ・破壊靱性試験片における溶接残留力除去処理プロセスのシミュレーション

建造革新研究会

会員：青山和浩会長ほか38名

船舶建造の船殻分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を行うことを目的とし、3つのワーキンググループにより下記の活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
総会	28.6.2	JMU 舞鶴	38名	5件

WG1：

第1回	28.6.2	JMU 舞鶴	13名	8件
第2回	28.9.15-16	JMU 有明	11名	8件
第3回	28.12.15-16	SHI 追浜	10名	9件
第4回	29.3.16-17	KHI 坂出	12名	8件

WG2：

第1回	28.6.2	JMU 舞鶴	13名	6件
第2回	28.9.20-21	MES 玉野	11名	7件
第3回	28.12.15-16	佐世保重工業	11名	8件
第4回	29.3.13-14	JMU 津	11名	8件

WG3：

第1回	28.6.2	JMU 舞鶴	12名	6件
第2回	28.9.29-30	大島造船所	10名	6件
第3回	28.12.8-9	JMU 横浜	9名	7件
第4回	29.3.2-3	日本海事協会	10名	7件

実施事項：

- ・歪み取り及び薄板工作法 (WG1)
- ・工作精度 (WG2)
- ・夢の工場の研究 (WG3)

造船設計・生産技術研究会

会員：篠田岳思会長ほか4部会合わせて96名

船舶・海洋構造物の船体・機関・電装に係わる、計画から設計・艤装工作に至るまでの過程における技術的諸問題を考究し、その成果を設計や生産に関する指針・基準として纏め、設計・生産技術の高度化を図ることを目的として活動を展開した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
造船設計部会				
第124回	28.9.29-30	倉敷ニッセイホテル	21名	5件
第125回	29.3.2-3	伊万里迎賓館	21名	5件

船体艤装工作部会				
第33回	28.6.13,14	三菱下関	22名	4件
第34回	28.11.10,11	名村造船	14名	4件
第35回	29.3.1,2	川重神戸	18名	4件

機関艤装部会				
第18回	28.10.20-21	MES 玉野	21名	7件
電気艤装部会				
第16回	28.10.6-7	JMU 呉	20名	7件

海洋工学研究会				
第124回	28.9.29-30	倉敷ニッセイホテル	21名	5件
第125回	29.3.2-3	伊万里迎賓館	21名	5件

船体艤装工作部会				
第33回	28.6.13,14	三菱下関	22名	4件
第34回	28.11.10,11	名村造船	14名	4件
第35回	29.3.1,2	川重神戸	18名	4件

機関艤装部会				
第18回	28.10.20-21	MES 玉野	21名	7件
電気艤装部会				
第16回	28.10.6-7	JMU 呉	20名	7件

海洋工学研究会				
第124回	28.9.29-30	倉敷ニッセイホテル	21名	5件
第125回	29.3.2-3	伊万里迎賓館	21名	5件

船体艤装工作部会				
第33回	28.6.13,14	三菱下関	22名	4件
第34回	28.11.10,11	名村造船	14名	4件
第35回	29.3.1,2	川重神戸	18名	4件

機関艤装部会				
第18回	28.10.20-21	MES 玉野	21名	7件
電気艤装部会				
第16回	28.10.6-7	JMU 呉	20名	7件

海洋工学研究会				
第31回	28.8.19	いわき市	13名	3件
第32回	28.12.13	府大I-siteなんば	16名	4件
第33回	29.3.28	久慈市	21名	4件

研究会開催（海洋環境研究会との合同研究会）				
第31回	28.8.19	いわき市	13名	3件
第32回	28.12.13	府大I-siteなんば	16名	4件
第33回	29.3.28	久慈市	21名	4件

実施事項：				
・福島洋上風力実証実験サイト見学会の実施（28.8.19）				
・第26回海洋工学シンポジウムの開催（29.3.6-7）				
・東京大学久慈波力発電所見学会の実施（29.3.27）				

- ・若手研究者の海外派遣（AWTEC2016へ1名派遣）
- ・招へい専門家（新日鉄金エンジニアリング）による浮体係留に関する講演
- ・構造部会の開催（井上部会長，年3回，東京大学および三井造船本社会議室，海洋工学の英文書籍の勉強会，構造関係の研究紹介）

海洋環境研究会

会員：林昌奎会長ほか78名
海洋環境の調査・保全・修復，海洋環境変動の評価・予測等に関する研究を推進・支援するため，海洋環境研究会を下記のとおり開催した。

研究会開催（海洋工学研究会と合同研究会）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第34回	28.8.19	いわき市	13名	3件
第35回	28.12.13	府大I-siteなんば	16名	4件
第36回	29.3.28	久慈市	21名	4件

実施事項：

- ・福島洋上風力実証実験サイト見学会の実施（28.8.19）
- ・第26回海洋工学シンポジウムの開催（29.3.6-7）
- ・東京大学久慈波力発電所見学会の実施（29.3.27）

情報技術研究会

会員：青山和浩会長ほか44名
造船および海事産業の情報技術に関する調査研究とニーズや技術課題の発掘を目的に，以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第33回	28.6.6	川崎重工業	28名	3件
第34回	28.10.6	広島大学	25名	3件
第35回	29.1.17	JMU	25名	4件

実施事項：

- ・機関紙「さうちせいぎょ」の発行
- ・情報技術（業界，他業界）に関する話題の提供と討議
- また国土交通省の先進安全船舶・造船技術研究開発費補助金（革新的造船技術研究開発）を受けて，研究調査事業「海事産業における製品情報の高度利用のための情報共有基盤SPEEDSのプロトタイプの実装」を実施し，複数の造船CADの3Dデータおよび属性情報がSPEEDS上で共通して利用可能であることを確認した。

【5】国際学術協力等

1. 日韓ジョイントセッション

韓国造船学会と共同で開催して5回目となる日韓ジョイントセッションは，11月21日に日本船舶海洋工学会秋季講演会にて，日韓3名ずつの講演者により，Ship Performance in Waves, LNG CCS (Cargo Containing System), and LNG-fueled Ship というテーマの下，6件の講演が行われた。100名以上の参加者があり，活発な質疑応答があった。

2. Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES)

平成28年10月13, 14日に，香港で開催された7th PAAMES/AMEC (Advanced Maritime Engineering Conference) 2016に，原壽会長，佐藤徹理事，深沢塔一教授，箕浦宗彦国際企画委員を派遣し，国際会議に参加するとともにPAAMES/AMECの運営に関する議論を行った。

AMECの論文数は74件のうち25件が日本から投稿された。参加者はのべ約300名であった。

3. 国際対応委員会

国際的な諸活動に対応するため下記の委員会を開催した。

(1) JTTC 委員会

委員数：柏木正委員長ほか34名

ITTC（国際試験水槽会議）への対応および船舶性能に関する調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第32回	28.6.16	神戸大学	13名	10件
第33回	28.10.20	海上技術安全研究所	23名	13件
第34回	29.3.1	えひめ共済会館	12名	13件

実施事項：

- ・第28期ITTC各委員会の進捗状況等に関する情報交換
- ・第28期ITTC総会情報と第29期ITTC委員の選考
- ・平成28年度予算の執行内容，機関代表交代の承認

(2) JSSC 委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか20名

ISSC（国際船舶海洋構造会議）への対応および構造・材料分野の調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第25回	28.8.29	JMU 本社	16名	17件

実施事項：

- ・ISSC2018理事会・各委員会の進捗状況に関する情報交換
- ・平成28年度予算の執行内容とその承認

(3) 国際企画委員会，国際基準部会

委員：佐藤徹委員長ほか11名

IMOの規則委員会に英国造船協会RINAから提案された起案について，国際基準部会で審議を行い，当学会としての見解をRINAに回答した。

(4) PRADS 2019 準備委員会

PRADS 2019を横浜で開催するため，準備委員会を発足した。

【6】シンポジウム等の開催

1. 第26回海洋工学シンポジウム

「人類と海—共生を支えるしくみ—」をコアテーマに，3件の特別講演を含む海洋工学の広範囲な分野の最新の技術動向についての講演が行われ，活発な議論が行われた。日本船舶海洋工学会と日本海洋工学会の共催として実施された。

期日：平成29年3月6日～7日

場所：日本大学理工学部 駿河台キャンパス1号館

参加人数：167名，講演数88件

【7】研究者・技術者の海外共同研究促進事業

研究活動のグローバルな活性化と国際的な人材育成の促進を目的に，平成28年度はブラジルと日本の若手研究者(30歳代)間の，以下の共同研究3件を実施した。

- 1) マンテニングに用いるハイブリッドレーザーアーク溶接シミュレーションのための熱源のモデル化
 - 2) 多列柱構造物周りの流れのCFD解析と実験との比較
 - 3) 多列柱浮体の動揺がケーシングパイプの動的挙動におよぼす影響
- 3件とも2年計画の研究であり，平成29年度も継続する。また平成29年度の海外共同研究には，新たに3件の応募があった。

【8】後援および協賛

関連学協会の講演会・シンポジウム等に70件の協賛と4件の後援を行った。また日本学術会議が主催する講演会等を共催した。

【9】支部活動

1. 東部支部

会員および広く公益に資する目的で，海事関連の最新テーマに関するワークショップを2回開催した。また船の構造に係わる技術交流，研究活動のため構造研究会を実施した。

(1) 第1回東部支部ワークショップ

「洋上・水中における無人化船技術」

期日：平成28年10月12日(水)
場所：東京大学工学部1号館15号講義室
参加人数：73名(内、非会員20名)
講演数：7件、懇親会参加者：33名

(2) 第2回東部支部ワークショップ

「船舶海洋工学における最適化」
期日：平成28年11月18日
場所：東京海洋大学越中島キャンパス越中島会館講堂
参加人数：34名(内、非会員7名)
講演数：5件、懇親会参加者：29名

(3) 東部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者数	講演数
第42回	28.5.18	海技研	33名	4件
第43回	28.9.13	SHI-ME	31名	4件
第44回	29.1.13	JMU	28名	4件

2. 関西支部

(1) 特別講演会

期日：平成29年1月13日
場所：神戸クリスタルタワー
出席者：57名
題目：遠隔操船型自律航行船の実現を目指して
清水悦郎准教授(東京海洋大学)
船舶を遠隔監視しながら自動運航する技術の開発を紹介するとともに法規、保険等に関する紹介も行った。

(2) 関西支部シンポジウム

・第1回シンポジウム

期日：平成28年6月22日
場所：I-site なんば 出席者：45名
題目：海中システムシンポジウム
日本の海中システム技術に関する開発動向について、各分野の専門家より講演いただいた。
講演 5件

・第2回シンポジウム(関西支部学生研究発表会)

期日：平成28年12月3日
場所：大阪産業創造館
出席者：74名
ポスター：25件

(3) KFR (関西船舶海洋流体力学研究会)

第333回例会
期日：平成28年6月22日
場所：I-site なんば 出席者：45名
題目：海中システムシンポジウム
第334回例会
期日：平成28年9月29日
場所：大阪大学中之島センター 出席者：32名
題目：水素社会と水素運搬船
第335回例会
期日：平成28年12月14日
場所：大阪大学理工学図書館
題目：特殊船を知る(2) 出席者：32名
第336回例会
期日：平成29年3月3日
場所：大阪大学吹田キャンパス U2-312 出席者：77名
題目：船舶の操縦性、制御して安全性について

(4) KSSG (関西船体構造研究会)

第111回
期日：平成28年4月28日
場所：関西設計 出席者：24名

第112回

期日：平成28年7月27日
場所：大阪研修センター 出席者：20名

第113回

期日：平成28年10月24日
場所：新大阪丸ビル別館 出席者：22名

第114回

期日：平成29年3月17日
場所：大阪大学吹田キャンパス S1-412
出席者：21名

3. 西部支部

(1) 西部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者
第34回	28.5.17	チサンホテル広島	35名
第35回	28.9.27	グリーンヒルホテル尾道	35名
第36回	29.1.24	リファレンス大博多ビル	35名

(2) 西部支部構造研究会シンポジウム

「引き渡し後の船舶とメンテナンス」
期日：平成28年12月20日
場所：広島大学中央図書館ライブラリーホール
参加人数：52名、講演：5件
新造船引き渡し後の船舶の運用や使用状況を把握することの意義や、船殻構造のメンテナンスに関する技術や製品の動向、異業種におけるメンテナンスシステムなどを理解するため、関係する専門家に講演いただき今後の構造設計等について検討した。

(3) 西部支部性能研究会

Workshop on Environmental Technologies in Naval Architecture and Ocean Engineering, 2016
期日：平成28年12月8日、9日
場所：広島大学大学院国際協力研究科114号会議室
参加人数：45名、講演：20件
船舶海洋分野の学生や企業の若手研究者・技術者に気軽に参加できる国際会議の場を提供するとともに当該分野の環境関連技術に関する情報交換を行った。

(4) 西部支部シンポジウム

「船舶における排ガス制御技術の最近の動向と実船への適用事例」

期日：平成28年10月18日
場所：九州大学西新プラザ
参加人数：53名、講演：5件
IMOの環境規制「船舶からの大気汚染防止条約(MARPOL73/78 ANNEX VI)」のNOx三次規制では、これまでの一次・二次規制対応技術である燃焼技術に加えて、研究開発中の種々の新対応技術を組み合わせることが必要となる。このため最新のルール動向、NOx、SOx排出制御の最新技術について、今後の技術検討のための情報交換を行った。

(5) 西部支部特別講演会

「日立の英国鉄道プロジェクトについて」
期日：平成29年1月10日
場所：リファレンス駅東ビル5F 会議室
参加人数：32名、講演：1件
欧州での初契約となった海外でのプロジェクトをどのように推進したのか、英国における鉄道市場の特徴や英国の高速鉄道プロジェクトの概要などを講演いただいた。列車の衝突解析技術、船舶とは異分野の鉄道車両における海外展開等の情報交換を行った。

II 啓発・広報事業

【1】能力開発センター

1. 能力開発センター運営委員会

委員数：吉川孝男委員長ほか5名

能力開発センターを構成する技術者資格支援委員会, CPD委員会, 大学等教育支援委員会の活動を推進した。

2. 技術者資格支援委員会

委員数：八木光委員長ほか1名

技術士補（技術士第1次試験）の資格取得のための講習会を開催した。技術士一次試験の専門科目（機械とシステム, 浮体の力学, 計測・制御, 材料・構造）について4名の講師による講習を行った。

期日：平成28年6月9, 10日

場所：学会会議室

後援：日本マリンエンジニアリング学会, 日本造船工業会

参加人数：6名

3. CPD委員会

委員数：新宅英司委員長ほか4名

継続的能力開発（CPD）ポイント蓄積システムの運用を行い、運営効率を改善するためシステムの見直しを行った。

4. 大学等教育支援委員会

委員数：馬場信弘委員長ほか6名

日本技術者教育認定機構（JABEE）の活動に協力し、船舶海洋系大学の教育プログラムの、JABEE 認定に向けた支援を行った。

【2】船舶海洋工学シリーズの英訳出版

海外の造船技術者育成に資する目的で「船舶海洋工学シリーズ」の英語版の翻訳・出版作業を進め、平成27年度に引き続き、第2巻目として「Fundamentals of Ship Strength Analysis – Part1 Structure and Global Strength」を刊行した。また第3,4巻目の翻訳作業を行った。

【3】造船技術者社会人教育

若手造船技術者の実務に役立つ実践的な教育のため、日本造船工業会、日本中小型造船工業会と共催し、造船技術者社会人教育（第16回）を実施した。

【4】海洋教育推進活動

1. 海洋教育推進委員会

委員数：小林正典委員長ほか49名

(1) 委員会の開催

運営委員会, WG 戦略会議, 支部委員会, フォーラム実行委員会を下記のとおり開催し、以下について審議した。

- ・海洋教育推進委員会の運営方針
- ・海洋教育フォーラム, 海洋教育セミナーの計画・実施

期日	委員会名	出席者数
28.4.8	第27回運営委員会	6
28.4.8	第16回WG戦略会議	14
28.6.30	第28回運営委員会	5
28.6.30	第17回WG戦略会議	16
28.10.5	第29回運営委員会	6
28.10.5	第18回WG戦略会議	18
28.12.22	第30回運営委員会	8
28.12.22	第19回WG戦略会議	14
29.3.13	第31回運営委員会	10
29.3.13	第20回WG戦略会議	14

(2) 海洋教育フォーラムと海洋教育セミナーの開催

- ・第11回東部支部海洋教育セミナー
期日：平成28年6月30日
場所：東京海洋大学品川キャンパス
プログラム：講演5件 参加者数：17名
- ・第5回関西支部海洋教育セミナー
期日：平成29年3月17日
場所：大阪府立大学 I-site なんば
参加者数：6名
- ・第22回海洋教育フォーラム
「南極・しらせ・海—自然と歴史」
期日：平成28年11月5日
場所：秋田県ゆとり生活創造センター
プログラム：講演4件 参加者数：80名
- ・第23回海洋教育フォーラム
「私たちの海—海の資源と海岸のまちづくり～」
期日：平成28年11月12日
場所：東北工業大学八木山キャンパス
プログラム：講演4件 参加者数：230名
- ・第24回海洋教育フォーラム
「駿河湾のふか〜い話—深海をのぞいてみようー」
期日：平成28年11月26日
場所：江崎ホール
プログラム：講演4件 参加者数：97名
- ・第25回海洋教育フォーラム
「海のエネルギーを電気に変える」
期日：平成28年12月3日
場所：JR博多シティ会議室
プログラム：講演4件 参加者数：50名
- ・第26回海洋教育フォーラム
「瀬戸内海の環境と水産資源
—せとうちの海の幸は守れるか？」
期日：平成28年12月10日
場所：広島YMCA国際文化センター
プログラム：講演4件 参加者数：54名
- ・第27回海洋教育フォーラム
「海の生物と人間活動の調和を求めて」
期日：平成28年12月10日
場所：長崎県美術館
プログラム：講演5件 参加者数：46名
- ・第28回海洋教育フォーラム
「今治の造船と海運のはなし」
期日：平成28年12月11日
場所：みなと交流センター
プログラム：講演4件 参加者数：85名
- ・第29回海洋教育フォーラム
「ふねの文化」
期日：平成29年1月21日
場所：大阪科学技術センター
プログラム：講演3件 参加者数：50名
- ・第30回海洋教育フォーラム
「海洋エネルギー—海洋再生可能エネルギーと地域産業～」
期日：平成29年2月9日
場所：釜石・大槌地域産業育成センター
プログラム：講演5件 参加者数：92名

- 第31回海洋教育フォーラム
「群馬と海」
期日：平成29年2月18日
場所：群馬大学
プログラム：講演5件 参加者数：80名
- 第32回海洋教育フォーラム
「私たちの海『空から見た海』」
期日：平成29年3月11日
場所：記念艦三笠講堂
プログラム：講演4件 参加者数：171名
- 第33回海洋教育フォーラム
「海洋空間利用の現在とこれから 2-海中・海底を調査利用する技術-」
期日：平成29年3月18日
場所：東京海洋大学越中島キャンパス講堂
プログラム：講演2件 参加者数：190名

(3) 海洋教育に関する広報活動

- 海洋教育に関するイベントの紹介記事を学会誌に掲載した。
- 海洋教育イベント情報をホームページに掲載した。
- 「海の不思議箱」のコンテンツを追加・充実した。

(4) 海洋教育に関する企画

- 国内の海事関連団体・企業に赴き、海洋教育に関連する各機関の取り組みについて情報収集を実施した。(WG4)
- 国立科学博物館の2016夏休みサイエンススクエアにおいて、海と船の工作ひろば「すいすい推力船を作ってみよう!」、バンドー神戸青少年科学館で、「すいすい水力推力船の工作教室」、船の科学館で、「みずパワーで船を動かしてみよう!」、東京大学柏キャンパスにて「水の力で進む船を作ろう!」を実施した。(WG5)
- 海洋型自然体験学習として、秋田市にて親子対象の海藻おしぼワークショップを実施した。ワークショップでは、海藻による海の森や日常の食べ物としての海藻の話聴講した後、海藻おしぼづくり体験を実施した。(WG8)

2. 青少年啓蒙活動

(1) 東部支部おもしろ船教室

期日：平成28年7月30日
場所：横浜国立大学
参加者数：107名
プログラム：実験を主体とした講演・体験、大型実験水槽造波見学

(2) 西部支部夏休みおもしろ船教室

期日：平成28年8月31日
場所：長崎総合科学大学
参加者数：40名
プログラム：海洋体験クルージング、ペーパークラフト教室
操船シミュレーター体験、ミニ潜水艦の操縦体験
船を造ろう!造船技術シミュレーター(塗装・溶接)体験

(3) その他啓蒙活動

- そのほか下記の活動を共催・後援した。
- 海技大学校施設公開 練習船「海技丸」体験航海と講演会(28.8.23)
- 大阪大学 青少年セミナー「海の日」船舶海洋試験水槽の公開(28.7.18)
- '16水中ロボットコンベンション in JAMSTEC (28.8.26-28)

3. 一般向け講演会の開催

表2-1のとおり造船系8大学にて小学生から高校生を含む一

表2-1 一般向け講演会

大学	開催日/場所	参加者
東京大学	平成28年11月26日 東京夢の島マリーナ	50
東京海洋大学	平成28年7月18日 東京海洋大学敷地内野外 平成28年10月30日 東京海洋大学船水実験室 平成28年9月10日 江東区	120 40 70
横浜国立大学	平成28年7月18日 横浜国立大学キャンパス 平成28年8月27日 横浜国立大学キャンパス	65 39
大阪大学	平成28年10月6-8日 神戸国際展示場(テクトーション) 平成29年1月29日 兵庫県立大学(サイエンスアール)	50 1415
大阪府立大学	平成28年7月9日 開智中学校・高等学校 平成28年8月4日 大阪狭山市立公民館 平成28年10月27日 兵庫県立宝塚北高等学校	44 40 26
広島大学	平成28年8月8日 山口高校・徳山高校・岩国高校 平成28年9月14日 高松第一高校	120 40
九州大学	平成28年8月27日 伊都キャンパス	64
長崎総合科学大学	平成28年12月10日 平安閣サンプリエール	228

般向けの講演会等を開催した。本事業は日本造船工業会より補助金を受けた。

4. 夏の学校

2泊3日または1泊2日で、性能・運動分野および構造強度・材料溶接分野の専門家に講義を依頼し、若手技術者の専門教育の充実、および交流を促進する「夏の学校」を以下のように開催した。

(1) 性能・運動分野

期日：平成28年9月23~25日
場所：野呂山 国民宿舎(広島県)
参加者数：44名

プログラム：特別講義3件、基礎講義3件

講師：5名

(2) 構造強度・材料溶接分野

期日：平成28年8月20~22日
場所：東京大学山中寮内藤セミナーハウス(山梨県)
参加者数：15名

プログラム：講義7件、実験演習

講師：7名

【5】会誌発行

会員および広く一般に海事関連の最新情報を提供し、また学会活動を広報・周知するため、学会誌「KANRIN」を隔月に発行した。

(1) 学会誌編集委員会

委員数：藤本由紀夫委員長ほか61名

・学会誌発行の全体計画および調整のため、下記の編集幹事を開催した。

回	期日	場所	出席者数
第46回	28.6.28	大阪(丸ビル)	6
第47回	28.10.22	今治造船(丸亀事業所)	9
第48回	28.12.28	船舶海洋工学会会議室	10

・特集等の企画・編集のため、各支部単位の編集委員会を随時開催した。

・会誌「KANRIN」第66号～71号を各支部編集委員会の分担により編集し、発行した。

・研究企画委員会との連携で連載解説記事「ここまできたCAE」の連載を開始した。

・平成28年度より会員活動報告に、研究企画委員会との連携で各研究会報告の掲載を開始した。

・平成28年度より「会員の声」ページの掲載を開始した。

(2) 刊行

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第66号から71号までの6冊を表2-2のとおり刊行し会員に配布した。

表2-2 日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」発行

会誌・号・発行月	頁数	発行部数
KANRIN 第66号(平成28年5月)	81	5,100
KANRIN 第67号(平成28年7月)	114	5,100
KANRIN 第68号(平成28年9月)	88	5,100
KANRIN 第69号(平成28年11月)	79	5,100
KANRIN 第70号(平成29年1月)	81	5,100
KANRIN 第71号(平成29年3月)	84	5,100
計	527	30,600

【6】電子情報サービス

会員をはじめとする国民一般への広報・情報発信として、学会ホームページの管理運用を行った。また会員の利便性向上の一環として、会員サイトおよび英文ページの情報の充実を図るとともに、ホームページ活性化のために、フォトギャラリーを開設し、フォトコンテストを2回実施した。

(1) 情報管理委員会

委員数：吉田泰三委員長ほか3名

下記のとおり4回の情報管理委員会を開催し、主として学会ホームページの運用に関する審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	28.6.22	日本船舶海洋工学会	7
第2回	28.8.31	日本船舶海洋工学会	7
第3回	28.11.29	サノヤス造船本社	6
第4回	29.2.2	日本船舶海洋工学会	6

(2) 主な実施事項

- ・日本船舶海洋工学会ホームページの企画・管理・運用
- ・メールニュースNo.240～270の発行
- ・会員サイトのコンテンツの追加・充実
- ・フォトギャラリーの企画
- ・フォトコンテストの実施 2回

【7】褒賞

日本船舶海洋工学会細則第33条から36条にもとづき、学会賞、船舶海洋技術賞等を授与した。

1) 平成28年度定時総会において、表2-3のとおり日本船舶海洋工

表2-3 論文賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞、日本海事協会賞 論文名：渦法による浮体構造物の非線形波浪中挙動解析法の開発 ー第1報, 第2報ー 受賞者：大窪 慈生(日立造船), 永田 修一(佐賀大) 今井 康貴(佐賀大), 新里 英幸(日立造船)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞、日本造船工業会賞 論文名：Cumulative collapse of a ship hull girder under a series of extreme wave loads 受賞者：飯島 一博(大阪大)</p>

表2-4 船舶海洋技術賞

<p>受賞者：加藤 洋治(東京大学名誉教授)</p>

表2-5 奨励賞(乾賞)

<p>論文名：A Study on the Stern Shape Optimization of a Container Ship using Navier-Stokes Analysis 受賞者：Trong-Nguyen Duy(横国大)</p>
<p>論文名：実船の波浪中船速低下を直接計測する水槽試験法の開発 受賞者：北川 泰士(海技研)</p>
<p>論文名：確率有限要素法による形状不確定性を考慮した構造解析手法について 受賞者：陳 曦(横国大)</p>

表2-6 開発・発明賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 題名：被衝突安全性に優れた船体用高延性鋼の開発と実船適用 受賞者：紙田健二(今治造船), 泉 尚吾(今治造船) 山田安平(海技研), 戸澤 秀(海技研) 市川和利(新日鐵住金), 大川鉄平(新日鐵住金) 菅 勇人(日本海事協会), 上西 豊(日本海事協会)</p>
--

表2-7 社会貢献賞

<p>日本船舶海洋工学会社会貢献賞 題名：海洋教育フォーラムの全国展開の短期間での拡大 受賞者：新井 信一(東北工業大)</p>
--

学会賞・日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与した。

- 平成28年度定時総会において、表2-4のとおり第40回船舶海洋技術賞が加藤洋治君に授与された。
- 平成28年度定時総会において、表2-5のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)を授与した。
- 平成28年度定時総会において、表2-6のとおり日本船舶海洋工学会賞(開発等)を授与した。
- 平成28年度定時総会において、表2-7のとおり日本船舶海洋工学会社会貢献賞を授与した。
- 船舶海洋系大学および大学院(修士課程)の卒業者の中から成績優秀な者に表2-8のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 商船高等専門学校等の卒業者の中から成績優秀な者に表2-9のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 工業高等学校の卒業者の中から成績優秀な者に表2-10のとおり、奨学褒賞を授与した。

表 2-8 奨学褒賞 (大学, 大学校)

学校名, 学科名	受賞者
東京大学 工学部システム創成学科 大学院工学系研究科システム創成学専攻 大学院新領域創成科学研究科	白井 結哉 金子 栄樹 北 祐樹
横浜国立大学 理工学部建築都市・環境系学科 大学院工学府システム統合工学専攻	牧村 直輝 依田 貴志
東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科 海洋工学部海洋電子機械工学科 海洋工学部流通情報工学科 海洋科学技術研究科海運システム工学専攻	長瀬 貴洋 稲葉 慎英 高橋 漱 内堀 勇輝
神戸大学 海事科学部グローバル輸送科学科 海事科学部海洋安全システム科学科 海事科学部マリンエンジニアリング学科 海事科学研究科	平井 諒 大村 智之 伊東 真優 岡本 浩佑
大阪大学工学部 地球総合工学科船舶海洋工学科目 大学院工学研究科地球総合工学専攻	金子 顕也 三木 真理子
大阪府立大学工学域機械系学類 海洋システム工学課程 大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	山田 祐介 秦 宇椋
東海大学海洋学部 航海工学科海洋機械工学専攻	佐藤 秀悟
広島大学工学部 第四類輸送機器環境工学プログラム 大学院工学研究科輸送・環境システム専攻	張 信吾 井町 美智也
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース 大学院工学府海洋システム工学専攻 総合理工学府大気海洋環境システム学専攻	根本 龍宜 藤原 祐二 池田 亮
長崎総合科学大学 工学部船舶工学科	高谷 康平
海上保安大学校 本科第一群 本科第二群	神田 奈那美 竹本 七海
海技大学校 海上技術コース (航海) 海上技術コース (機関)	武内 康将 熨斗谷 惣一郎

【8】シップ・オブ・ザ・イヤー授賞

毎年日本で建造された船舶・海洋構造物の中から、技術的・芸術的・社会的に優れた作品を選考して表彰するシップ・オブ・ザ・イヤーの第 26 回目となるシップ・オブ・ザ・イヤー2015を選定した。

平成 28 年 5 月 31 日, 応募作品の発表会と選考会が実施され, 選考委員会において下記作品が各賞に選定された。平成 28 年 7 月 7 日に開催された海事三学会合同表彰式 (海運クラブ) において, 受賞作品の表彰を行った。

- シップ・オブ・ザ・イヤー2015 : いずみ / ひびき
 技術特別賞 : 魁 (SAKIGAKE)
 大型貨物船部門賞 : MILLAU BRIDGE
 小型貨物船部門賞 : なとり
 漁船・作業船部門賞 : 第八十八光洋丸

【9】広報活動

各種イベントにおけるパンフレットの配布等, 学会活動を広く周知し入会者の増加を図る目的で広報宣伝活動を継続した。

表 2-9 奨学褒賞 (商船高等専門学校)

学校名	受賞者
弓削商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	林 祐一朗 和田 直樹
大島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	吉本 優 鷲頭 真紗城
富山高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	渡辺 千尋 江尻 光輝
鳥羽商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	志井 典子 山路 和徳
広島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	村上 昂也 中田 紘凌

表 2-10 奨学褒賞 (高等学校)

学校名	受賞者
山口県立下関中央工業高等学校	松岡 隼史
高知県立須崎工業高等学校	岡本 正
長崎県立長崎工業高等学校	高田 隼哉

【10】創立 120 周年記念事業実行委員会

平成 29 年 5 月 22 日に創立 120 周年記念式典・記念講演会・祝賀会を行うため, 以下の 5 ワーキンググループを結成し記念事業の準備を行った。

- 委員長: 日野孝則副会長
 WG1 (リーダー: 松本光一郎理事)
 ・記念式典, 記念講演会, 祝賀会の企画
 WG2 (リーダー: 吉川孝男理事)
 ・造船・海洋工学技術 20 年史の編纂, 出版
 WG3 (リーダー: 藤田均理事)
 ・造船・海洋工学啓蒙書入門書の編纂, 出版
 WG4 (リーダー: 河部香理事)
 ・国際シンポジウムの開催準備
 WG5 (リーダー: 滝田総一郎理事)
 ・広報およびパネル展示の企画

【11】ふね遺産の認定事業

歴史的価値のある「ふね」関連遺産を社会に周知し文化的遺産として次世代に伝えるための認定事業として, ふね遺産認定実行委員会を設置し, 同委員会にて認定基準の作成と第 1 回公募を実施し, 認定基準に従って, 応募案件から, 審査委員会への推薦案件を選考した。

【12】支部活動

1. 東部支部
 (1) 若手研修・意見交換会
 若手世代の親睦, 情報共有, 問題意識喚起のため, 若手研修会を開催した。ドローン技術や完全自動運転タクシー等の革新的ロボット技術を開発している会社の見学や, 社長の講演を聴講し, ロボット技術の海事産業への活用について意見交換を行った。

期日: 平成 29 年 3 月 28 日
 場所: 株式会社 ZMP, 東京大学 本郷キャンパス
 参加人数: 19 名

(2) 海事産業へのお誘い

海事産業へ興味を持つ全ての大学生・大学院生を対象とした海事産業へのお誘いを開催した。参加団体による個別説明会、概要説明パネルの展示を行い、海事産業の魅力を周知することに努めた。

期日：平成29年3月8日

場所：東京海洋大学 越中島キャンパス 85周年記念会館

参加人数：48名、参加団体数：16団体

(3) 東部支部情報管理委員会

会員等に対する情報提供として、支部ホームページの管理、メールニュース（No.43）の発行を行った。

2. 関西支部

(1) 若手技術者研修会

委員数：藤久保会長ほか8名

第1回見学および講演

期日：平成28年6月6日、出席者：5名

場所：大阪大学船舶海洋試験水槽および接合科学研究所

第2回見学

期日：平成28年9月30日、出席者：6名

場所：今治造船丸亀事業本部・川崎重工業坂出工場

第3回見学

期日：平成28年10月21日、出席者：6名

場所：サノヤス造船水島製造所・三井造船玉野事業所

第4回見学

期日：平成28年11月18日

場所：JMU津事業所 出席者：6名

第5回見学

期日：平成28年12月15日

場所：キャタピラージャパン明石事業所、出席者：5名

第6回見学

期日：平成28年12月16日

場所：新日鐵住金広畑工場 出席者：5名

(2) 造船資料保存委員会

委員数：内藤委員長ほか28名

期日：平成28年12月15日

場所：神戸大学海事科学部 出席者：21名

(3) 関西シニア海事研究会

総会（平成28年7月9日）

場所：神戸クリスタルホール 出席者：44名

(4) 支部長賞

・支部長賞(1件)

著書：「船のカタチ」

・支部長賞(奨励)(5件)

大西一弘(阪大)、宇野健介(阪大)、前田新太郎(阪府大)

木谷悠二(阪府大)、河尻義貴(阪府大)

(5) セミナー・講習会

・見学会

期日：平成29年3月25日

場所：大阪の渡船と造船の歴史を巡る

参加者：12名

・海事産業説明会

期日：平成28年12月3日

場所：大阪産業創造館

テーマ：

①海運業界の現在と今後の展望、丸元夫氏（日本郵船）

②造船業界の現在と今後の展望、上田直樹氏（三菱重工）

学生参加者：132名 参加団体：23団体

(6) 学生会員募集

学生会員勧誘のための学会紹介パンフレットを製作し、学生会員の拡大を図った。

3. 西部支部

(1) 西部支部セミナー

「配管艤装設計・施工の現状と可能性」

期日：平成28年9月23日

場所：九州大学西新プラザ

参加人数：42名、講演：5件

造船技術者や学生を対象として、3D-CADや3Dデータを駆使した配管艤装設計・施工の最新の話や、建築設備の設計施工などの異分野における最新の取り組みについての講演があり、今後の可能性について意見交換を行った。

(2) 西部支部見学会 ― 長崎 軍艦島を巡る旅 ―

期日：平成28年11月27日 参加者：18名

場所：長崎市「軍艦島（端島）」

船舶・海洋工学への知見を深めることを目的とし、「明治日本の産業革命遺産」の一部として、世界文化遺産に登録されている軍艦島を訪れ、端島炭鉱跡や日本最古の鉄筋コンクリート造りのアパートなどを見学し、島の歴史や当時の人々の生活の様子を理解した。

(3) 広報編集委員会

回	期日	場所	出席数
第28回	28.4.27	リファレンスはかた近代ビル	11名
第29回	28.11.8	リファレンスはかた近代ビル	15名

このほか随時、電子メールにより学会誌の企画・編集に関わる審議を行った。

(4) 電子情報委員会

電子メールにより関連課題の審議を行った。

(5) 広報活動など

メールマガジン第65号～第70号を配信した。

III 事務報告

【1】会合

1. 定時総会

平成28年度（第121期）日本船舶海洋工学会定時総会を代議員65名(内書面による議決権行使45名、定足数43名)の出席者のもと下記のとおり開催し、平成27年度（第120期）事業報告（報告事項）および収支決算報告を審議して可決した。

期日：平成28年5月26日 12:45～13:40

場所：福岡県中小企業振興センター（福岡市博多区）

議事：

(1) 平成27年度（第120期）事業報告、決算報告

(2) 平成28年度（第121期）事業計画、収支予算

2. 理事会

平成28年度（第121期）第1回定例理事会

日時：平成28年5月10日（火）13:30～16:30

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事13名、監事2名、事務局1名

欠席：理事2名、監事1名

主要議事：

・平成27年度（第120期）事業・決算報告に関する審議

・平成28年度定時総会に関する審議

・内規の改定に関する審議
 平成28年度（第121期）第2回定例理事会
 日時：平成28年7月15日（金）13:00～16:30
 場所：リファレンス駅東ビル会議室（福岡市博多区）
 出席：理事13名，監事2名，事務局1名
 欠席：理事2名，監事1名
 主要議事：

- ・研究企画委員会，研究委員会に関する審議
- ・ふね遺産認定実行委員会に関する審議
- ・代議員選挙および役員選出日程に関する審議

平成28年度（第121期）第3回定例理事会
 日時：平成28年9月16日（金）14:00～17:00
 場所：中央電気倶楽部 会議室（大阪市）
 出席：理事11名，監事2名，事務局1名
 欠席：理事4名，監事1名
 主要議事：

- ・経済産業省補助事業の実施に関する審議
- ・ふね遺産認定実行委員会に関する審議
- ・代議員選挙の実施に関する審議

平成28年度（第121期）第4回定例理事会
 日時：平成28年11月11日（金）14:30～17:00
 場所：川崎重工業神戸造船工場 会議室（神戸市）
 出席：理事13名，監事3名，事務局1名
 欠席：理事2名
 主要議事：

- ・研究企画委員会に関する審議
- ・PRADS 2019 準備委員会に関する審議
- ・内規の改定に関する審議

平成28年度（第121期）第5回定例理事会
 日時：平成29年1月27日（金）14:00～17:00
 場所：日本船舶海洋工学会 会議室
 出席：理事12名，監事3名，事務局1名
 欠席：理事3名
 主要議事：

- ・120周年記念事業に関する審議
- ・平成29年度事業計画および予算案に関する審議
- ・内規の改定に関する審議

平成28年度（第121期）第6回定例理事会
 日時：平成29年3月17日（金）14:00～17:00
 場所：A P浜松町 会議室
 出席：理事14名，監事1名，事務局1名
 欠席：理事1名，監事2名
 主要議事：

- ・平成29年度（第122期）事業計画・予算に関する審議
- ・名誉会員・功労会員の推薦
- ・終身会員の推薦

【2】会員の異動

1. 会員数推移

平成29年3月31日現在，会員総数は個人会員4,467名，賛助会員143団体，計4,613となった。（表3-1）

2. 名誉会員，功労会員の推薦

平成28年5月26日定時総会にて下記のとおり4名が名誉会員に，5名が功労会員に推薦された。

名誉会員： 大和 裕幸 瀬崎 良明
 新開 明二 横田 健二
 功労会員： 児玉 良明 庄司 邦昭 芳村 康男
 土井 康明 梶原 宏之

3. 終身会員の推薦

表3-1 会員数推移

種別	前期末 (28年3月 31日)	当期末 (29年3月 31日)	減員	増員	増減
正会員	4,188	4,197	75	84	9
（内名誉会員）	(36)	(38)	2	4	2
（内功労会員）	(62)	(60)	7	5	-2
（内終身会員）	(899)	(945)	27	73	46
（内シニア会員）	(88)	(92)	5	9	4
（内在外会員）	(93)	(86)	10	3	-7
学生会員	225	270	75	120	45
賛助会員 特級	17	17	0	0	0
1級	9	9	0	0	0
2級	10	10	0	0	0
3級	109	107	4	2	-2
個人	2	3	0	1	1
合計	4,560	4,613	154	207	53

理事会において下記73名の終身会員への推薦が承認された。

金 鐘三 栗津 憲一 安見 照久 井上 幸一
 鳥野 良一 遠藤 久芳 横尾 雅俊 下山 敬次
 賀田 和夫 関屋 収 岩浅 俊朗 久野 雅生
 宮田 隆司 宮本 修治 弓削 章三 近藤 時生
 犬伏 健 高品 純志 根本 明 三井 哲夫
 三好 雄一 山崎 敬造 山内 裕 寺西 勇
 酒井 能具 小宮 守 小林 順一 小林 富夫
 松岡 一祥 松本 研一 上谷 秀雄 深田 雅敏
 星野 徹二 西田 道生 石井 規夫 石丸 純史郎
 切田 篤 川島 義伸 川路 正 川寄 哲郎
 浅間 成人 増山 豊 太田 美樹 大崎 幸一
 大柴 隆士 大内 一之 辰岡 正樹 谷村 仁司
 竹波 敏行 中村 芳信 中村 容透 中長 啓治
 長本 晋武 鳥生 丈夫 塚部 保 塚本 雅敏
 田村 研 渡辺 孝則 島田 潔 島田 信二
 藤原 一志 入江 泰雄 平濱 修 並川 俊一郎
 宝田 雄次 豊田 宗晴 北田 博重 目瀬 博明
 矢後 清和 柳瀬 英夫 林 文夫 濱田 知聰
 高川 真一

【3】委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

(1) 英文論文集編集委員会

岡田哲男，篠田岳思，Mario Felli，Elena Ciappi

(2) 学会誌編集委員会

加藤淳，高田啓吾，小林正幸，黒木友博，堀田純平，井出健一，恩塚政憲

(3) 国際企画委員会

戸田保幸，稗方和夫，箕浦宗彦，後藤浩二，深沢塔一

(4) 海洋教育推進委員会

砂原俊之，山田豪，松岡和彦，中村昌彦，柳原大輔，有馬正和

(5) 研究企画委員会，分野研究企画部会

平木常正，東英一，田中進，大黒克伸，徳永嘉寛

(6) 研究委員会

P-49 船舶塗装防食設計指針の改定研究委員会：
 田中進，荒井誠，大沢直樹，田中太氏，東英一，大黒克伸，
 太田進，岸本研一，稲垣秀彦，中村千春，高木圭一郎，山田英城，
 山崎英司，藤田卓也，出川雄一郎，中桐裕明，石山直，上由紀夫，
 大石浩正，野村明宏，丸田康貴，武田宏之，目見田史郎

P-50 造船業におけるIoT技術の利用検討に関する研究委員会：
濱田邦裕, 青山和浩, 稗方和夫, 川村恭己, 木村元, 松尾宏平,
佐々木吉通, 安藤英幸, 尾崎雅, 広崎貴, 砂川祐一, 平山陸男,
平木常正, 安永亮, 松村卓哉, 黒龍英之, 国貞泰介, 土井憲治,
長野元睦, 吉富祐介, 関口晋, 藤原浩二, 竹藪直紀, 木村亨,
松尾稔, 中尾幸

P-51 内航海運のための省エネ母船型の研究開発委員会：
日野孝則, 谷澤克治, 稗方和夫, 岡田哲男, 大澤直樹, 陸田秀実,
金丸 崇, 山尾 崇, 三浦唯秀, 眞砂 徹, 本瓦 誠, 高品純志

P-52 作業安全に配慮した作業標準の制定方法に関する研究委員会：
篠田岳思, 福田雅之, 福本峰治, 樋口賢二, 奈良圭祐,
新名広隆, 橋口秀紀, 田中 敦, 福本祐之, 河本満, 古森裕章,
藤田知利, 亀山宏治, 八尋憲一郎, 関口喜仁, 近藤敦, 金子修,
高尾陽介

(7) 講演会企画委員会

田中進, 東英一, 多部田茂, 村山英晶

(8) ふね遺産認定実行委員会

長谷川和彦, 平山次清, 庄司邦昭, 内藤林, 小嶋良一,
新開明二, 白木原浩

(9) PRADS 2019 準備委員会

岡田哲男, 日野孝則, 川村恭己, 村井基彦, 平川嘉昭,
佐藤 徹, 鈴木克幸, 青山和浩, 飯島一博, 濱田邦裕,
安澤幸隆, 柳原大輔, 木戸川充彦, 松本俊之, 谷澤克治,
小林顕太郎

【4】 会員管理システムの更新

会員情報管理用のデータベースが旧式化したため、会員の利便性・安全性の向上を目的として新たな会員情報管理システムの導入を行ない、平成28年10月に旧システムから移行した。

新会員管理システムでは、Web サイトから会員個人のデータにアクセスすることが可能となったほか、カード決済導入など機能を拡充した。

【5】 代議員選挙

代議員選挙管理委員会（委員長：大和裕幸）を設置し、任期満了に伴う日本船舶海洋工学会代議員選挙の結果、平成29～30年度の代議員は下記のとおり選出され、平成28年12月22日公示された。

青木 伊知郎	青山 和浩	荒井 誠	有馬 俊朗
有馬 正和	粟島 裕治	安藤 英幸	安東 潤
池淵 哲朗	石黒 剛	伊東 章雄	伊藤 博子
岩下 英嗣	上田 直樹	上野 道雄	内田 誠
宇都宮 智昭	宇都 正太郎	梅田 直哉	籠 一之
大坪 新一郎	大沢 直樹	大塚 耕司	大庭 亮
岡田 哲男	奥田 成幸	柏木 正	片山 徹
川越 美一	川村 恭己	河部 香	北村 徹
北村 充	木村 暢夫	木村 元	河野 一郎
後藤 浩二	佐藤 隆一	重見 利幸	篠田 岳思
柴崎 公太	白木原 浩	新海 信隆	新宅 英司
菅 勇人	鈴木 克幸	鈴木 英之	高木 健
高木 祐介	高野 裕文	高橋 裕樹	高平 智明
竹田 太樹	田中 進	辻本 勝	坪川 毅彦
土井 康明	戸田 保幸	直井 秀明	長屋 茂樹
西尾 茂	野瀬 幹夫	濱田 邦裕	日野 孝則
平山 明仁	藤久保 昌彦	古川 芳孝	穂森 繁弘
前田 泰自	正信 聡太郎	松村 竹実	松本 光一郎
松本 俊之	三橋 孝司	宮崎 恵子	村井 基彦
餅田 義典	安川 宏紀	安澤 幸隆	山内 豊
山口 悟	山口 一	山崎 哲生	

【6】 補助金等

当会の諸事業に対する助成として以下の補助金や寄付金を受領した。

- | | | |
|------------------------|-----------------|---------|
| (1) 科学研究費補助金 | 日本学術振興会より | 380万円 |
| (2) 国からの補助金 | | |
| 1) 輸送機器の実使用時燃費改善事業費補助金 | 経済産業省資源エネルギー庁より | 4,537万円 |
| 2) 先進安全船舶・造船技術研究開発費補助金 | 国土交通省より | 314万円 |
| (3) 業界補助金 | | |
| 一般向け講演会活動費 | 日本造船工業会より | 150万円 |

【7】 関連団体との協力

- 1) 日本学術会議
日本学術会議が主催する講演会・シンポジウムを3件共催した。
- 2) 日本工学会
CPD協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。また、事務研究委員会の活動に参画した。
- 3) 日本造船工業会
造船技術者社会人教育の事業、技術士資格に関わる講習会等で日本造船工業会と連携を図った。
- 4) 海事三学会
日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的として会長懇談会等を3回行った。また、合同表彰式、技術者支援事業等で連携を図った。
- 5) 機械系関連学協会
機械系学協会会長懇談会等を通じ、関連行事の連携を図った。

【8】 規則

- 1) 定例理事会において下記内規の改定を決議した。
 - ・英文論文集及び英文論文集編集委員会に関する内規
 - ・学会誌及び学会誌編集委員会に関する内規
 - ・代議員選挙実施内規
 - ・日本船舶海洋工学会賞授賞に関する内規
 - ・講演会に関する内規
- 2) 定例理事会において下記内規の制定を決議した。
 - ・ふね遺産認定に関する内規

【9】 行政庁への提出

- 1) 平成28年6月30日付で内閣府に事業報告、収支決算書を含む下記を提出した。
 - ・平成27年度（第120期）事業報告等に係わる提出書類
- 2) 平成28年7月25日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・平成27年度（第120期）事業報告等に係わる提出書類の修正
- 3) 平成29年3月31日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・平成29年度（第122期）事業計画
 - ・平成29年度（第122期）収支予算書
 - ・平成29年度資金調達及び設備投資の見込に関する書類

【10】 支部会合

1. 東部支部
定時総会
期日：平成28年5月13日
場所：日本海事協会東京支部会議室
出席者：32名
運営委員会

委員数：日野孝則支部長ほか13名

第1回（平成28年5月13日）

場所：日本海事協会東京支部会議室

主要議事：

(1) 平成27年度 東部支部事業報告および収支決算報告

(2) 平成28年度 東部支部事業計画および予算

第2回（平成28年7月8日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

(1) 平成29-30年度代議員選挙の実施

(2) 運営委員の役割分担

(3) 平成28年度 ワークショップ（運営委員会提案）の企画

第3回（平成28年9月2日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

(1) 代議員選挙実施の手順

(2) 代議員選挙管理委員の推薦

(3) ワークショップの準備の進捗状況

第4回（平成28年11月4日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

(1) 代議員候補者の推薦結果

(2) 次期支部長、支部推薦理事候補者および支部監事の選出

(3) 会費未納者（会員資格喪失対象者）への対応

(4) 平成28年度中間決算

第5回（平成29年1月20日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

(1) 平成29-30年度代議員選挙の結果

(2) 平成29年度 東部支部事業計画案・予算案(1次案)

(3) 平成28年度会員資格喪失対象者

(4) 平成28年度終身会員の推薦

第6回（平成29年3月10日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

(1) 平成28年度東部支部事業報告および決算報告の作成

(2) 平成29年度 東部支部事業計画案・予算案（第2次案）

(3) 平成28年度 東部支部会計監査の実施

(4) 平成29-30年度運営委員の委嘱

(5) 平成29年度東部支部定時総会の開催日程および役割分担

東部支部会務委員会

委員数：田中義照委員長ほか15名

支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

第1回（平成28年4月27日）

第2回（平成28年7月1日）

第3回（平成28年9月2日）

第4回（平成29年10月28日）

第5回（平成29年1月12日）

第6回（平成29年3月3日）

2. 関西支部

定時総会

期日：平成28年5月17日

場所：三菱重工業神戸造船所

出席者：40名(成立要件33/47名商議員)

商議員会

委員数：河部支部長ほか54名

期日：平成29年1月13日

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：28名

主要議事：

(1) 平成28年度事業進捗状況

(2) 平成29年度事業計画(案)・予算(案)

(3) 支部長賞候補推薦のお願い

運営委員会

委員数：河部支部長ほか15名

第1回（平成28年4月21日）

場所：メール審議

主要議事：

(1) 会員異動

(2) 支部長賞

第2回（平成28年5月17日）

場所：三菱重工業神戸造船所 出席者：29名

主要議事：

(1) 会員異動

(2) 支部長賞内規の変更

第3回（平成28年7月8日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：20名

主要議事：

(1) 会員異動

(2) 支部選挙及び運営委員選出に関する手順書

(3) 平成29/30年度役員改選

(4) シンポジウム企画案

第4回（平成28年9月9日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：21名

主要議事：

(1) 会員異動

(2) 平成29/30年度商議員選挙

(3) 平成29/30代議員選挙

(4) 海岸清掃

(5) 海事産業説明会

第5回（平成28年10月28日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：20名

主要議事：

(1) 会員異動

(2) 平成29/30代議員候補者推薦について

(3) 支部長候補者選考委員会

(4) 平成28年度事業進捗状況

(5) 平成29年度事業計画素案・予算素案

(6) 平成28年秋季講演会

(7) 関西支部学生研究発表会

(8) 海事産業説明会

(9) 新年特別講演会

第6回（平成28年12月2日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：21名

主要議事：

(1) 会員異動

(2) 平成29年度事業計画案・予算案

(3) 関西支部学生研究発表会

(4) 海事産業説明会

(5) 新年特別講演会

(6) 見学会

(7) 平成29年度定時総会

第7回（平成29年1月13日）

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：25名

主要議事：

(1) 会員異動

(2) 平成29年度事業計画(案)・予算(案)

(3) 次期支部長・監事および支部推薦理事候補者の推薦

(4) 内規改定

- (5) 支部長賞候補推薦のお願い
 - (6) 見学会
- 第8回(平成29年3月6日)
場所:中央電気倶楽部 出席者:18名
主要議事:
 - (1) 会員異動
 - (2) 平成29年度支部定時総会
 - (3) 平成29年度若手技術者研修会
 - (4) 見学会
 - (5) 次期運営委員会の体制について
 - (6) 学生会員募集パンフレット

会務委員会

- 委員数:箕浦幹事ほか12名
支部長を補佐し,支部の運営に関する諸事項を実施した。
- 第1回(平成28年5月17日)
 - 第2回(平成28年7月8日)
 - 第3回(平成28年9月9日)
 - 第4回(平成28年10月28日)
 - 第5回(平成28年12月2日)
 - 第6回(平成29年1月13日)
 - 第7回(平成29年3月6日)

授賞審査委員会

- 委員数:柏木委員長ほか7名
メールにて審議

3. 西部支部

定時総会

- 期日:平成28年4月26日
場所:JR博多シティ 9F 大会議室
議事:
 - (1) 支部役員の承認
 - (2) 第11期(平成28年度)事業報告および会計報告
 - (3) 第12期(平成29年度)事業計画および予算審議
 - (4) 西部支部内規改定の件
 - (5) 授与式
 - ・平成27年度船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞

西部支部運営委員会

- 委員数:吉川孝男支部長ほか28名
- 第1回(平成28年4月26日)
場所:JR博多シティ 9F 大会議室
主要議事:
 - (1) 平成28年度予算・事業計画
 - (2) 構造研究会シンポジウム開催報告
- 第2回(平成28年7月29日)
場所:JR博多シティ 10F 大会議室
主要議事:
 - (1) 監事交代の件
 - (2) 平成28年度事業計画の詳細について
- 第3回(平成28年10月19日)
場所:リファレンス駅東ビル 4F 会議室
主要議事:
 - (1) 平成28年度事業報告(含状況報告・費用報告)
 - (2) 平成29年度事業計画案
 - (3) 見学会・特別講演会の進捗について
 - (4) 次期運営委員会委員等について
- 第4回(平成29年1月10日)
場所:リファレンス駅東ビル 5F 会議室
主要議事:
 - (1) 各事業の開催報告
 - (2) 平成29年度事業計画案

- (3) 講演会企画委員会委員選出の件
 - (4) 地方委員廃止に関する支部規則変更について
- 第5回(平成29年3月8日)
場所:リファレンス駅東ビル 5F 会議室
主要議事:
 - (1) 会員異動まとめ
 - (2) 平成28年度事業報告・決算報告
 - (3) 平成29年度西部支部事業計画・予算案
 - (4) 西部支部細則修正案について